社協のマークです
福祉の心を育てよう

社協 尾崎支部だより

No.24
平成13年3月15日発行
各務原市社会福祉協議会
尾崎支部広報委員会

撮影　副支部長　鈴木釘夫

新世紀に寄せて

支部長　水谷重喜

尾崎学校区内に福祉の心を持つ人が増えつつあることは大変喜ばしいことと存じます。

さて、これまでの数十年間は、物と金銭を中心に時が進んだように思います。我が国では悪しき事と共に良き伝統も、『古い』の一言で捨て去られてきましたが、良き習慣は取り戻したいものです。

人も動植物も、自然界も地球家族として共に生きて行くために互いが尊重し合い、心と心でせっする世の中、即ち、自分が大切ならば、他も大切に、と言うお互いを尊重する暮らし方にしたいものです。

次に、新年度にかける私の夢物語を記しますと、近隣の『高齢者』『独居者で閉じこもりがちの人』『カギッ子』『育児に悩む若い親』などの人達が、気軽に集い語り合える場所を、協力者達の力を借りて作り育てて行きたいと、夢見ています。市の社会福祉協議会ではこれを『ふれあい　いきいきサロン』と名づけて奨励し、楽しい仲間づくりの活動の場と定義しています。多数の協力者を得て是非実現させたいと願っています。

尾崎山歩き愛好者の集いに参加してみませんか

副支部長　鈴木釘夫

最近、自然との触れ合いを求めたり、健康維持のために山歩きが熟年者のなかで大きなブームとなっています。

昨年八月に大川入山へ各務原市民登山が行われ、九十名近い参加者がありました。参加者の平均年齢は五十四歳と熟年者が多く、鵜沼地区の参加が目立ちました。残念ながら尾崎校区からの参加は一名のみでした。

しかし尾崎にも二～三名のグループから、同好会による金華山や岐阜百山、さらには近郊の山歩きを楽しんでおられる方が多数おられます。このように、登山の経験の豊富な方から低山の山歩きをされている方、これから山歩きを始めようとされる方等自然を愛し、山歩きを趣味とする尾崎の愛好者の集いを次のとおり開催します。お気軽に多数のご参加をお待ちしています。

・日時　三月三十一日（土）
　午後七時三十分
・場所　尾崎中央ふれあい会館一階和室
・集い名　尾崎山歩き愛好者の集い
・内容　山歩きの情報・意見交換、愛好者の相互親睦、山行計画等

社協尾崎支部の倉庫が完成

事務局長　酒向猛夫

久しく待望……念願の倉庫が平成十二年八月に完成しました。

場所は尾崎北町一丁目自治会のご協力を得て、同自治会、西側の空地に東向きで、南から林政会、同自治会倉庫に並んで間口三・〇メートル、奥行き一・八メートルの立派なものです。

暑い中、役員の皆さんにご苦労になり、雑草や雑木を取り除いて整地、コンクリートのテストピースで周辺の土止めをし、どうにか格好がつきました。是非一度ご覧下さい。

今後倉庫内の整理整頓はもちろん、特に雨樋に落葉がつまらないよう、又周辺の清掃に努めたいと思っています。

皆さんありがとうございました。

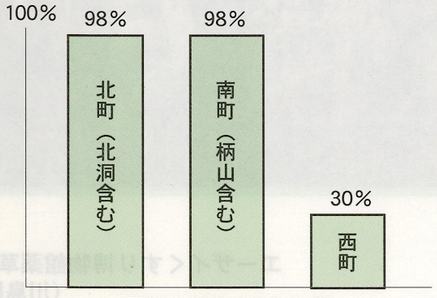
尾崎社協への御寄付 ありがとうございました。

渡辺一敏様	10万円
緑風会様	3千円
長生会様	3千円
岩戸　実様	1万円
新村重信様	3千円

（寄付月日順）

会員募集結果報告

御協力ありがとうございました。
尚、加入率は以下の通りです。



尾崎支部内での加入率

高齢社会に生きる

広報委員　北川淑子

年齢を重ねることは避けられない事実ですから、今私たちはどう生きればよいのかと不安を抱いている人は少なくないと思います。そこで昨年十一月二十六日福祉座談会の折の講演会の内容の要点を記しますので、参考にしていただければ幸いです。

演　題　「各務原市における高齢者介護の状況」

講　師　市健康福祉部高齢福祉課長　紙谷　清氏

〈講演要旨〉

当市の六十五才以上の人口は約一九〇〇〇人で、高齢化率は十四％程であり、七人に一人が六十五才以上ということである。これが三十年先には三人に一人という急速な高齢化となる。特に団地は同世代が同時に入居したため一気に高齢化することになる。現在当市においては約一八〇〇人が介護保険の認定を受けそのサービスを受けているが、介護サービスを受けたくないという人もいる。その理由は、

・家族で面倒を見るが、必要に応じてショートスティを利用する。

・他人（ヘルパー）に家に入ってほしくない。

・施設に入って団体生活をしなくてはならないという苦痛がある。

などである。認定を受けていない人でも、市のいろいろな施策を利用することができるので、民生委員を通して、相談をしてほしい。

最近は老親を都会によびよせて、一緒に生活するケースが増えてきた。が、このようなよびよせ高齢者がどのように暮らしているかといえば、「知らない土地で孤独感が増す」「衣食住は安心だが精神的に不安定になる」という実態が多いといわれている。

これからは若い世代も含め、誰もが高齢者になっていくことを自覚し、生きていく指針をしっかりと持たねばならない。

・高齢者は外に出て人とのふれあいをすすめ孤独感をとりのぞくようにする。

・ボランティアを受けるばかりでなく、高齢者自信もボランティアを実行する側に入る。

・年令に関係なく、自分自信が危機管理のできる人になりたい。（自分のことは自分で）

誰もが望むのは、安定した心で、自分に合った生活をしたいということである。それには何よりもまず「健康第一」である。

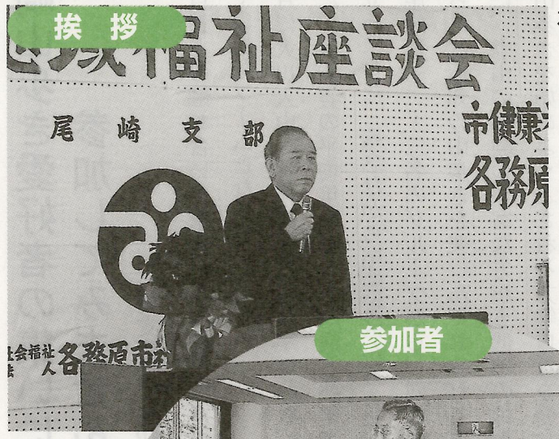
ボランティアアンケート調査のお願い

副支部長　安田久孝

今年は故小渕総理が国連で提唱した国際ボランティア年です。あなたも身近なボランティア活動に参加してみませんか。尾崎社協では平成7年にボランティアアンケート調査を実施しましたが、今回2度目のアンケート調査を近日中に行いますので、ご協力の程お願い申し上げます。

今回募集させて頂くのは、すでに当地区で定着しています①清掃ボランティア　②緑化ボランティアと③いきいきサロン協力ボランティアです。一芸ボランティア、施設訪問ボランティア等につきましては市社協でのボランティア登録をお願いします。

歳末地域福祉座談会　平成12年11月26日



水谷支部長挨拶

市高齢福祉課長　紙谷 清氏　講演

参加者の活発な意見発表

施設訪問　平成12年9月27日

施設前にて説明を受ける。（笠松町）

エーザイくすり博物館薬草園（川島町）

九月二十七日笠松町にある小規模ケアグループホーム『まどか』等の施設訪問を実施しました。『まどか』は、七～八人がケアを受けながら、『高齢者アパート』では、夫婦、仲間が共同して暮らしておられました。見学した参加者から『尾崎アパートの1階をシルバーハウスにできないものか？そうすれば、嫁、姑の同居問題も解決できるし、近くに居住しているため介護し易い。少子化での空部屋対策にもなりますよね』との意見がでました。

『高齢者居住法案』が検討されている最中であり、運動次第では難しくないと考えます。舞台で活躍する傍ら、福祉活動に取り組んでおられる杉良太郎さんが『ボランティアは、自分で何ができるかを見つけることから始まる。金のある人は金を、時間のある人は時間を使って下さい。両方ともない人は福祉の精神について考え下さい』といっておられますが、私達も今一度『ボランティア、福祉、社協』とは何かについて考え、色々知恵を絞れば高齢社会も快適に過ごすことができるのではないでしょうか。

啓発委員長　伊藤俊徳